

平成 17 年度 秋期

システムアナリスト 午後Ⅱ 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
2. この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読んでください。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 試験時間は、次の表のとおりです。

試験時間	14:10 ～ 16:10 (2 時間)
------	----------------------

途中で退出する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退出してください。

退出可能時間	14:50 ～ 16:00
--------	---------------

5. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ～ 問 3
選択方法	1 問選択

6. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
7. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“論述の対象とする構想，計画又はシステムの概要”の記入方法

論述の対象とする構想，計画又はシステムの概要と，その構想，計画策定又はシステム開発に，あなたがどのような立場・役割で関わったかについて記入してください。

①～⑯の質問項目に従って，記入項目の中から該当する番号を○印で囲むとともに，（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものをすべて○印で囲んでください。

問1 情報システム部門の役割の変化に対応した人材の確保・育成計画について

最近、情報システム部門の役割を見直す企業が多い。例えば、コアとなる事業や部門に人材を集中させるために、情報システム部門の企画機能だけを自社に残し、大部分の業務をアウトソーシングする企業がある。また、IT を戦略的に活用するために、従来のシステム構築中心の情報システム部門に、経営戦略立案に参画させたり、業務プロセス改革推進の役割をもたせたりする企業もある。

このような情報システム部門の役割の変化によって、情報システム部門の人材に求められる知識や能力が変わるので、新たな人材の確保や育成が必要になってくる。

システムアナリストは、まず、情報システム部門の役割の変化と将来の方向を見据えて、情報システム部門に求められる役割を果たすことができる新たな体制や人材像を定義する必要がある。その上で、現状と新たな体制や人材像とのギャップを埋めるために、人事部門と協力して、次のような方策を検討し、人材の確保・育成計画を策定しなければならない。

- ・新たな体制や人材像に適した職位区分やキャリアパスの設定
- ・不足しているスキルを補うための他部門や外部機関とのローテーション
- ・新たに必要となるスキルに対応した関連資格の取得奨励策の立案や IT スキル標準などを活用した人材育成体系の整備
- ・新たな人材像に対応した採用や処遇の見直し

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった情報システム部門の人材の確保・育成計画の策定において、背景となった情報システム部門の役割の変化の概要と、変化に対応した新たな体制と人材像を、800 字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた事例において、あなたはどのような人材の確保・育成計画を策定したか。あなたが特に重要と考え、工夫した点とともに、具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた人材の確保・育成計画の結果について、あなたはどのように評価しているか。今後の課題とともに簡潔に述べよ。

問2 IT 基盤の整備計画について

近年、企業ではオープン系システムが導入の手軽さから多数採用されてきた。これらのシステムは、それぞれに異なるプラットフォームや開発環境で構築されることが多く、開発や運用のコストが高くなったり、障害発生やセキュリティのリスクが増大したりする傾向がある。また、既存システムとの連携が複雑になり、新しいシステムを導入するときに、時間とコストがかかるようになってきた。これらを防ぐには、プラットフォームやネットワークの整理、システム間の連携方式の標準化、開発や運用の標準化、セキュリティ対策などの IT 基盤の整備を行うことが重要となる。

IT 基盤の整備には、開発や運用のコストの低減、障害発生やセキュリティのリスクの低減などのねらいがあり、同時に、ビジネスの変化に対応できる柔軟性や拡張性の確保にも配慮する必要がある。したがって、IT 基盤の現状の問題点を分析するだけではなく、ビジネス戦略を理解した上で、IT 基盤のあるべき姿を考えることが重要である。システムアナリストは、次のような点に考慮して、IT 基盤の整備計画を作成しなければならない。

- ・ IT の技術動向、信頼性、可用性
- ・ ビジネス戦略を踏まえたアプリケーションやデータと IT 基盤との適合性
- ・ IT 基盤の移行計画とビジネス戦略との整合性
- ・ IT 基盤技術者の育成や IT 基盤の運用体制の確立

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった IT 基盤の整備計画について、そのねらいと計画が必要になった背景、実現を目指した IT 基盤の概要を、800 字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた事例において、あなたはどのような IT 基盤の整備計画を作成したか。また、計画の作成に当たって、ビジネスの変化に対応できる柔軟性や拡張性に配慮し、ねらいどおりの効果を得るために、あなたが特に重要と考え、工夫した点は何か。それぞれ具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた IT 基盤の整備計画について、あなたはどのように評価しているか。今後の課題とともに簡潔に述べよ。

問3 中期経営計画の変更に対応した情報システム計画の見直しについて

多くの企業で、経営戦略に基づいた中期経営計画と情報システム計画が策定され、実行されている。

昨今、経営環境の激変を背景に、中期経営計画の変更が度々行われ、計画中又は開発中の情報システム化案件の内容も大幅に変更されるなど、情報システム計画は大きな影響を受けている。しかし、情報システム計画は、基盤整備やアプリケーション開発などに一定の期間と投資を必要とするので、変更できないこともある。また、変更した場合には、投資計画を大幅に見直さなければならない。

そこで、システムアナリストは、中期経営計画の変更に対応して、関連部署と調整し、投資効果などを再検討して情報システム計画の見直しを行う必要がある。その際、次のような点を考慮して見直し案を作成し、経営者の判断を仰がなければならない。

- ・情報システム計画において、中長期的な経営上の効果を考慮して、変更すべきでない内容には、継続して投資する。
- ・経営の根幹にかかわる中期経営計画の変更に対しては、計画中又は開発中の情報システム化案件の内容を抜本的に見直す。
- ・計画中及び開発中の情報システム化案件の状況を総合的に分析し、情報システム化投資のロスを最小限にするよう調整する。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった情報システム計画の見直しについて、背景となった中期経営計画の変更内容と情報システム計画への影響を、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた事例において、あなたは中期経営計画の変更に対して、どのような情報システム計画の見直し案を作成したか。あなたが特に重要と考え、工夫した点とともに、具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた情報システム計画の見直しについて、あなたはどのように評価しているか。今後の課題とともに簡潔に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

〔 メ モ 用 紙 〕

8. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
- (1) HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
 - (2) 受験番号欄に、受験番号を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されません。
 - (3) 生年月日欄に、受験票に印字されているとおりの生年月日を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
 - (4) 選択した問題については、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。

〔問 2 を選択した場合の例〕

選 択 欄	1	②	3
-------	---	---	---

なお、○印がない場合は、採点の対象になりません。2 問以上○印で囲んだ場合は、はじめの 1 問について採点します。

9. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。
- (1) 問題文の趣旨に沿って解答してください。
 - (2) 解答欄は、“論述の対象とする構想，計画又はシステムの概要”と“本文”に分かれています。“論述の対象とする構想，計画又はシステムの概要”は、2 ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。
 - (3) “本文”について、
 - ・設問アは、800 字以内で記述してください。
 - ・設問イ、ウは、合わせて 1,600 字以上 3,200 字以内で記述してください。
 - (4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
11. 答案用紙は、白紙であっても提出してください。
12. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。

なお、試験問題では、® 及び ™ を明記していません。